NPO法人トロッコ王国美深(北海道美深町)

- 廃線鉄路を活用した地域住民による町の顔づくり -

一般財団法人国土計画協会専務理事 太田 秀也

1. NPO法人トロッコ王国美深の活動

NPO法人トロッコ王国美深(以下「トロッコ王国」という)は、北海道美深町(人口3,708人(令和6年10月現在))にて、廃線となった鉄道路線においてトロッコ乗車体験提供の活動をするNPO法人である。1996年に取組がはじまり、2001年度に地域づくり表彰・国土交通大臣賞を受賞している。以下、その活動の概要を、トロッコ王国資料等の情報をベースに紹介する。

(1) 活動開始のきっかけ及び活動の経緯 一取組開始から29年目、NPO発足から21年 ロー

トロッコ王国がある美深町仁宇布(にうぶ)までは、かつて「日本一の赤字ローカル線」国鉄美幸線(美深一仁宇布間21.2キロ)が通っていたが、1985年9月に廃止された。その際、美深町仁宇布自治会が線路の保存を美深町に要請し、国鉄清算事業団から美深町に所有地が有償譲渡された。1996年6月に町民有志が「旧美幸線を活用する会」結成、線路の活用策の検討をはじめ、1997年12月22日任意団体「トロッコ王国美深の会」を結成(会員数66人)し、JRから譲渡を受けた2台のトロッコ(軌道自動自転車)で、1998年7月4日トロッコ王国を「開国」した(当初は土・日・祝日及び夏休みに限って運行)。その後、2001年には毎日運行体制をスタートさせ、トロッコの数も増やしていった。

2004年3月10日には「NPO法人トロッコ王国 美深」として組織変更し、活動を継続している。

入国者数は、初年度は千人に満たなかったが、 その後増え、2002年度には1万人を超え、年度に よって増減があるが、1万人前後で推移し、2023 年度は10,145人であった。

各年度別ご入国者数

年度		マイス インス インス インス インス インス インス インス インス インス イ	累計
2023	(令和5年)	10, 145	254, 381
2022	(令和4年)	11, 518	244, 236
2021	(令和3年)	9, 246	232, 718
2020	(令和2年)	8, 723	223, 472
2019	(令和元年)	12, 488	214, 749
2018	(平成30年)	11, 180	202, 261
2017	(平成29年)	11, 926	191, 081
2016	(平成28年)	9, 054	179, 155
2015	(平成27年)	11, 734	170, 101
2014	(平成26年)	11, 020	158, 367
2013	(平成25年)	10, 897	147, 347
2012	(平成24年)	12, 103	136, 450
2011	(平成23年)	10, 293	124, 347
2010	(平成22年)	12, 481	114, 054
2009	(平成21年)	13, 285	101, 573
2008	(平成20年)	9, 696	88, 288
2007	(平成19年)	11, 192	78, 592
2006	(平成18年)	7, 741	67, 400
2005	(平成17年)	8, 970	59, 659
2004	(平成16年)	11, 530	50, 689
2003	(平成15年)	13, 323	39, 159
2002	(平成14年)	12, 304	25, 836
2001	(平成13年)	7, 778	13, 532
2000	(平成12年)	3, 680	5, 754
1999	(平成11年)	1, 093	2, 074
1998	(平成10年)	981	981

(2) 現在の活動内容

トロッコは、GWから10月下旬まで約6か月間、毎日、9時から16時の毎時出発で、8つの時間帯で運行している(2024年度は4月27日~10月20日の運行)。

料金は大人1,600円、 (1名で乗車の場合は 1,800円)、中高生1,200 円、小学生700円、幼児 は無料となっている。料 金を支払うと入国パス ポートと硬券切符が発行

される。



2023年度の財務状況をみると、経常収益は約1,665万円(うち事業収益〔トロッコ運行〕約1,310万円、その他事業収益〔地域環境保全等受託事業〕133万円、受取補助金〔保全費等〕約203万円等)であり、経常費用は約1,812万円(うち人件費約902万円、その他施設管理費等)となっている(なお、2022年度は単年度黒字であった)。

2. インタビュー、現地調査

2024年8月5日にトロッコ王国を訪問し、野村 事務局長(下記の左側写真)にインタビューを行 うとともに、スタッフの安藤氏(右側写真)にも お話を伺い、現地調査を行った。その内容は以下 のとおりである。

(なお、野村氏は東京から美深町への移住者、 安藤氏は美深町の元職員であったとのことであ る。)





(1) インタビュー

①取組の経緯、組織の体制等

取組の経緯についてお教えください。

廃線後に約5kmの鉄路が町所有で残されていたが、なにか活用しないといつまでも残されるかわからないということもあり、町民有志による活用の取組が始まりました。

その後、運行日やトロッコ数も増やし、2002 年度には利用者が1万人を超え、きちんとした 組織で運用しようということとなり、NPO法 人格を取得しました。

組織の体制はどのようになっていますか。

NPO法人の理事会(理事8名)の下に、施設、運行等の部署があり、事務局を設けています。 運行が半年間ということもあり、常勤の職員は 置かず、各年で契約するスタッフが15名程度で 運営しています。わたし野村も常勤でなく、別 の仕事もあるため、週半分くらいの出勤となっています。

②取組の特徴

取組の特徴と考える点(アピール点など)はどのようなものですか。

美深町には大きな観光資源がなく、トロッコ 王国が町の顔的な存在となっており、町の支援 も得ながら町と協働で取組を進めています。

また町には雇用先も乏しく、雇用を生んでいる面もあります。ただし、臨時雇い的なもので、賃金も低く、ある意味ボランティア的な活動に支えられています。実際に、車両も年1台程度は製作していますが、スタッフ(元国鉄職員)が時給程度で手製したり、昨年オープンしたトロッコ食堂もスタッフ(元大工等)が内装などの作業をしています。

③取組が継続している要因

本年で取組開始から29年目となりますが、取 組が長く継続している要因はどのようなことが 考えられますか。

まず毎年1万人程度の利用客があり、施設への根強いニーズ・人気があることが挙げられます。

また町の顔として、町からの支援など連携した取組を行っていること、スタッフのボランティア的働きも大きいです。

利用者はどのような方が多いですか。また利用者確保のため、どのような取組を行っていますか。

道内の利用者が約2/3ですが、道外からも1/3の利用があります。基本はマイカーかレンタカーで来られます。GWと夏休みで全体の約7割の利用となっています。最大では1日で約500人の利用があります。

PR活動としては、HP、SNS等の他、紙媒体のパンフレットも配布しています。

家族連れや若いカップルに加え、長期の行程 で道内をめぐるシニア層も多く、最近ではフェ

リーにパンフレットを置いたところ、それを見 られたシニア層が訪れるケースも見られます。 鉄道マニアの方も一定程度見られます。

多くはありませんが、SNSや知り合いの紹介 で来られるインバウンドの方も見られます。特 に台湾の方は旅行会社のツアーで年数回、観光 バスで来られるケースもあります。

コロナ禍による影響はどうでしたか。

やはり利用客は減少しましたが、コロナ禍の 中でも9,000人前後の利用があり、他の観光施 設・事業に比べ、影響は少なかったと思います。 マイカー利用の方が多く、またオープン施設で ある点が効いたのだと思います。

④取組の効果(地域への効果など)

取組の効果はどのようなものがありますか。

先ほど述べましたが、地域に人を呼ぶ効果が 見られます。また、少ないですが雇用も生んで います。

トロッコ王国に来られた方が美深町に周遊する ようなケースも見られますか。

地域の観光施設としては、他に美深温泉くら いしかなく、それも地元の方の利用がメインで、 観光客が周遊して利用するといったことまでに は必ずしもつながっていません。

他方、道内にはトロッコを含め鉄道関係施設 も点在しており、それを北海道鉄道遺産として 連携した取組を行っています。

⑤取組の中で生じた課題、その解決方法

これまでの活動での課題や、現在の課題はどの ようなものがありますか。

町の財政も制約があり、町からの支援も多く は得られない状況となっていますが、自主財源 を蓄積し、町の支援も得ながら、施設の維持や 更新を進めています。昨年、新駅舎・トロッコ 王国食堂をオープンしましたが、町の補助を得 つつ、蓄積した自己資金で建設費を賄っていま す。

⑥取組の今後の展望(新たな事業展開など)

今後のめざす方向や新たな事業展開の構想があ ればお教えください。

事業を継続することにより、地域へ人を呼び 込むとともに、地域の雇用を維持することが重 要と考えています。

先ほど述べましたように、他の鉄道関係施設 との連携も深めていきたいと考えています。

(7)地域づくりを行う団体への取組のヒント等とな るアドバイス

これまでの取組を踏まえ、地域づくりを行う団 体への取組のヒント等となるアドバイスがあれ ばお教えください。

行政との連携が重要と考えています。

また地域への雇用を生むとともに、地域の人 材の力をうまく借りて低コストで運営できるよ うな体制を構築することが重要と考えています。

(2) 現地調査

8月5日(月)の9時から実際にトロッコに乗 車した。

トロッコは利用者自らが運転するので、出発前 に出発案内所で操作方法や注意事項の説明を受け

トロッコはエンジン駆動で運転席の足元にブ レーキとアクセルがある (最大9名乗り)。現在 12台で運行されている。







片道約5キロを約40分程度で往復する(利用者の運転なので時間は前後することがある)。最大時速25kmで運転すると結構なスピードを感じる。

森林の中を進むが、途中橋梁もあり、その部分

では徐行運転する。当 日は夏休みでもあり、 平日にかかわらず、家 族連れなど大勢の利用 客が見られた。





昨年オープンしたトロッコ王国食堂は木目調の広々とした空間で、窓も多く明るく開放的な空間となっている。軽食や飲み物、ソフトクリームなどが提供されている。



(写真は筆者撮影)

3. まとめと若干のコメント

以下、トロッコ王国の取組の特徴・ポイントと 思われる点をまとめるとともに、若干のコメント をしたい。

(1) 取組の特徴・ポイント

本誌2024年1月号50項以下において、「地域づくり表彰の表彰事例の整理・分析」として、これまでの地域づくりの取組事例を整理・分析したが、その内容も踏まえ、トロッコ王国の取組をみると、以下のような特徴・ポイントが挙げられる。

①取組の位置づけ

地域に人を呼ぶ「観光振興」の「事業活動」 (同誌53頁参照)と位置付けることができる。また、活動のきっかけ・経緯(同誌52頁参照)としては、鉄道廃線という「地域課題の解決」と、残 された鉄路という「地域資源の活用」のタイプの 取組である。

②取組の発展性と継続性・特色

当初は、住民有志の活動からスタートしたが、 活動を進めるうちに、安定的な事業を行うために NPOに改組している。

また、自主財源を蓄積しながら、新たな施設整備を行うなど、経営の持続性・発展性が見られる。

加えて、観光資源の乏しい地域において、観光 施設整備・運営により、地域の顔づくりを担うと ともに、就労先の乏しい地域での雇用創出も行っ ている。

(2) 若干のコメント

本取組は、人口が少なく(4千人弱)、観光資源や就労先にも乏しい地域における、廃線鉄路を活用した地域住民による町の顔づくりの取組、雇用創出の取組として注目される。

地方の(小規模な)レジャー施設が多く閉鎖されるような状況の中で、1998年の施設オープンから27年にわたり、コロナ禍も乗り越え、1万人程度の利用客を維持しており、地域における集客施設運営の観点からも注目される。

15名程度のスタッフに対して1000万円弱に満たないが地域の雇用を創出しており、スタッフの方が、地域の顔を維持していこうという気概で活動に従事されている様子が伺えた。

組織も、事務局長を含め、高くない賃金により 経営を続け、新たな施設整備も行うなど、事業継 続を行っている。

その点で、人口減少社会における人口の少ない 地域での地域づくりの一つのモデルと評価できる ものと思われる。

今後の展開としては、取組を進められる他の鉄 道遺産との連携に加え、家族連れ、シニア層等を ターゲットとした他の周辺施設(例えば前号で紹 介した士別市の「羊と雲の丘」等)との連携など も考えていくことが有効ではないかと思われる。

※本稿の内容は、筆者の見解であり、筆者の属する組織及び地域づくり表彰主催団体としての意見ではないことを申し添える。